



今年度は中国の武漢が発生元と言われている新型コロナウイルスの感染拡大のために瑞穂鯨城会の活動は概ね中止になり、先輩方との顔合わせや、ご挨拶もないまま入会になりました。やっと役員との繋がりができ始めて「いいところ巡り」に参加の機会を頂きました。

当日は師走とは思えない温かく穏やかな日に恵まれ17期～33期までの男性9名、女性17名 計26名の参加でした。

金山総合駅に9:15に集合して、名鉄急行内海行き9:30発に乗車し、美浜緑苑駅に10:18到着です。

名古屋から48分の乗車ながら、知多新線で穏やかな里山のトンネルを抜けて、伊勢湾の青い海原を眺め、丘陵地のビニールハウスや、蜜柑畑を眺めながらの鉄道旅は、気が滅入るコロナ禍からすっかり解放されて、身も心も伸びやかに晴れやかな気分になりました。

のどかな美浜緑苑駅の改札口でmanacaをかざして抜ければ、30年ほど前に開発された新興住宅地は、今では南国の海辺に建つ別荘地の雰囲気醸す閑静な落ち着いた住宅街です。

あまり車の通らない住宅地を通り抜けながら、庭の山茶花や、たわわに実った蜜柑の植栽、ドウダンツツジの紅葉などを愛でながら、三五々

おしゃべりしながらのんびり散策です。

やがて目の前に木立に囲まれた杉本美術館です。屋根は緑青の銅板葺きで、壁はレンガ調タイルの重厚な雰囲気のある建物でした。

美術館に入る前にアプローチの石段で受付の方にシャッターをお願いしてマスク姿の全員の記念撮影です。

杉本美術館には杉本健吉画伯の「両界曼荼羅」「新平家絵物語」をはじめ、油彩、水彩、素描着色など生涯にわたる芸術作品が数多く収蔵されています。今回は常設展示に加え、「城のある風景」のテーマで企画展示が開催されていて、ゆっくり心ゆくまで鑑賞できました。

また、美術館の窓際から臨む伊勢湾や紅葉した里山の木々が美しく楽しめました。

多くの先輩方にお会いできましたが、お互いにマスク姿でお顔と名前が覚えきれませんでした。これからも機会があれば積極的に参加して、仲間に加えて頂きたいと思っていますのでよろしくお願ひ申し上げます。

今回は役員の方のご尽力で入館料900円のところ、団体割引と株主優待で650円になり、そのうえ事前に「案内パンフレット」まで作成していただき有難うございました。

(撮影 32期 田甫 正治)

